



図-13 ハマフエフキ標識放流位置図

要 約

東支那海、有明海域栽培漁業場資源生態調査の対象魚種として、ハマフエフキを取り上げ、その分布生態、産卵生態、環境、漁業生産、標識放流等について調査した。

その結果は次のとおりである。

1) 調査海域の漁場環境

海況についてみると、表面水温は9月下旬28.8°Cが最高で、1月下旬21.2°Cが最低であった。

塩分は8月上旬34.388で最低、2月中旬34.796で最高を示した。

底曳網で漁獲された底生生物は、魚類63種、イカ、タコ類5種、エビ類11種、シヤコ、カニ類22種、棘皮動物14種で、総計115種、総個体数14016個体であった。その類別割合は、魚類45%、イカ、タコ類0.5%、エビ類39%、カニ、シヤコ類11%、棘皮動物4%であった。優占種は魚類ではヒラメ類、エソ類、ニジイトヨリ、トカゲゴチ、ネズボ科Sp、オキヒイロギで、イカ、タコ類ではコブシメ、メヒカリイカ、ミミイカ、エビ類では、M・Palmensis、サルエビ、カニ、シヤコ類ではトゲシヤコ、ヒメガザミ、ワタリガニ科Sp、Phalangipus filiformis (クモガニ科)、棘皮動物ではハネジナマコ、コブヒトデ、カスリモミジガイ、ヘコミブンブクである。

2) 幼魚の分布生態

聞き取り調査によると、幼魚が出現するのは11月で、その海域は勝連半島西側の水深